睦沢町 女ヶ堰 ため池ハザードマップ

▶氾濫シミュレーションについて

本ハザードマップ作成にあたり、万が一の事態でため池が決壊した場合、最大でどの程度の被害範囲となるかを知るために、最悪の状況を想定した被害予測を行いました。

(1) この図は、女ヶ堰（ため池）が決壊し、全ての水が下流へ流れてきた場合の浸水想定区域と、当該区域が浸水した場合に想定される水深を示したものです。
(2) この浸水想定区域は、女ヶ堰（ため池）が満水状態で大雨又は大地震等により決壊した場合の状況を、シミュレーションにより求めたものです。
(3) このシミュレーションの実施にあたっては、河川の氾濫、内水（河川に排水できずに氾濫した水）氾濫、想定を超える降雨による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

▶氾濫シミュレーションの条件

シミュレーションは、最大規模の氾濫を想定しています。
決壊時の水位は満水位とし、大雨や大地震等により最大決壊断面に瞬時に達し、その後全貯水量が流れ出すとしています。
決壊を仮定した地点は、流出量の大きくなる堤防の高い場所とし、氾濫水の追跡計算は、地形を 5mの格子で表したモデルを用いて行っています。

▶ため池の役割

ため池は、雨が少なく、大きな河川から離れた地域等で、農業用水を確保するために、水を貯めておく人工的な池のことです。

水辺空間の形成
都市化の進行や開発によって緑や水辺空間が減少する中、水に親しむことのできる場所を提供しています。

農業用水としての役割
雨が少ない地域では、古くから農業用水をため池に貯め、利用しています。

防災としての役割
適切に管理することにより、大雨時の洪水調節や、火災時の防火用水としての役割があります。

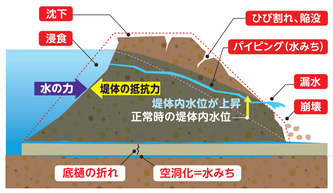
▶ため池の決壊メカニズム

ため池の決壊は、大雨や地震、ため池の老朽化により発生する可能性があります。

大雨のとき
集中豪雨や長雨により、ため池の水位が上昇し、堤に浸透する水の量が増え、ため池決壊の危険性が高まります。また、流木などにより、ため池の余水吐がふさがれると、ため池が満水となり、水が堤からあふれ出し、堤が浸食され、決壊に至るおそれがさらに高まります。

地震のとき
大地震では堤に亀裂や漏水、沈下が生じる可能性があり、強度低下により、水圧に耐えきれず決壊することがあります。
また、その後の余震で決壊することがあるため注意が必要です。

▶ため池が危険なとき



【地震のとき】
地震により、堤体がクラック（裂け目、ひび割れ等）、沈下、斜面崩壊、斜面すべり等で破壊あるいは損傷され、決壊に至ります。

【大雨のとき】
堤体が痛むと、堤体内の途中や底に水みちができ、決壊する場合があります。堤体全体に水が浸透し、堤体内の強度が弱まり、法面にすべり破壊が発生します。豪雨により、堤体内水位が急激に上昇し、堤体を越えて流れ出し、外側の法面が破壊され、決壊する場合があります。また、水の力が上昇し、堤体内を侵食し、決壊する場合があります。

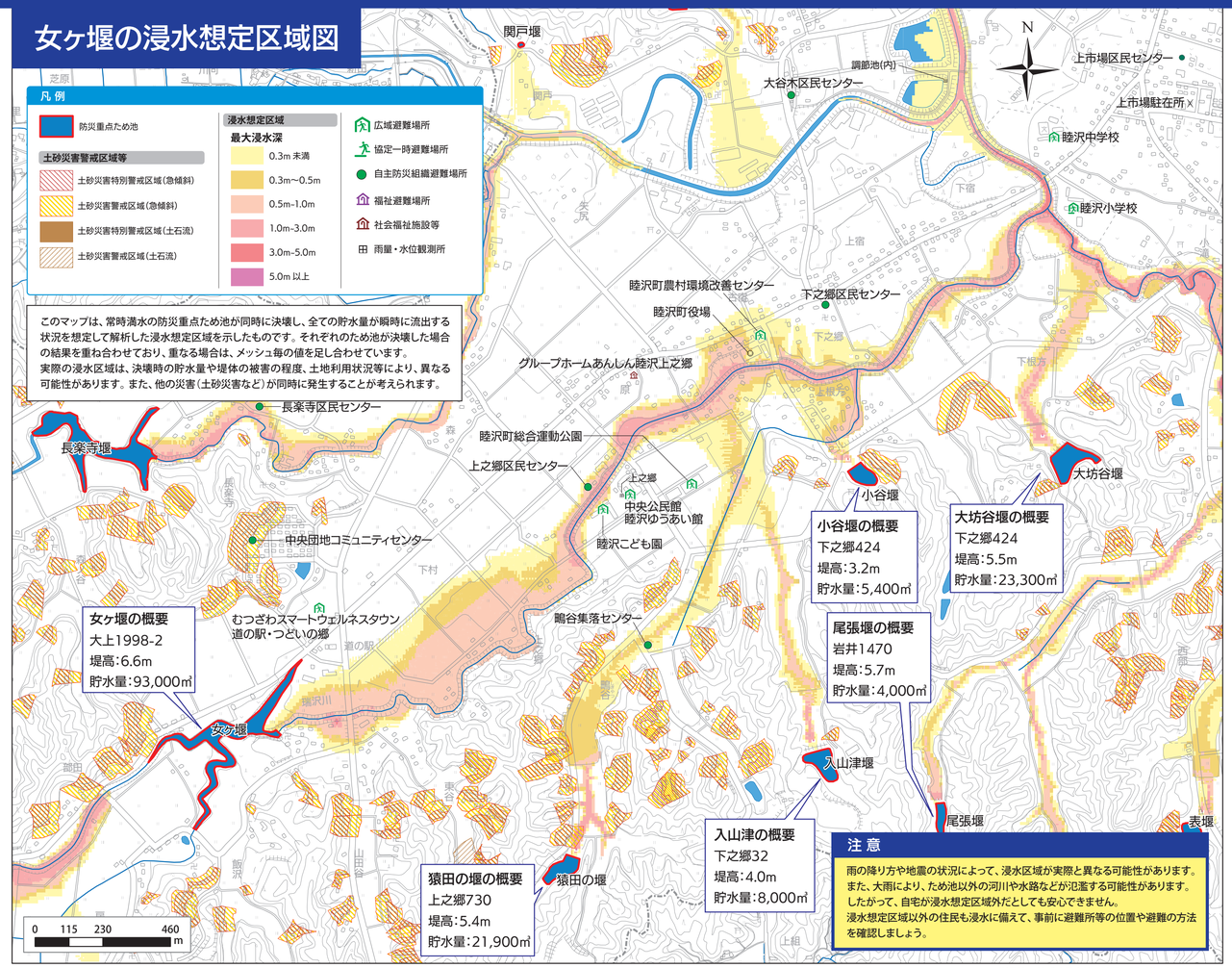
▶浸水の深さと避難行動

ハザードマップに示す浸水の深さを参考に、基本的な避難の仕方を考えましょう。
ため池が決壊すると、短時間で浸水する場合があります。状況に応じて判断し、身の危険を感じたら速やかに避難して下さい。

❶ハザードマップで周辺の最大浸水深を確認	❷どこへ避難するのかを判断	❸以下に注意して避難
3.0m 以上の浸水 ●2 階以上が浸水 ●水流が強い場合には、木造住宅が倒壊する危険がある	水平避難 浸水しない場所（避難場所・道路・空き地・高台など）へ移動する	●歩きやすい服装 ●徒歩で避難 ●事前に避難先を決めておく ●高齢者等の避難に協力を
0.5~3.0m の浸水 ●床上浸水、1 階全体が浸水 ●水流が強い場合には、木造住宅が倒壊する危険がある	垂直避難 自宅や近くの丈夫な建物の 2 階以上にとどまる	●水、食べ物、簡易トイレ、懐中電灯、ラジオ、貴重品などを 2 階に持って上がる ●近所の高齢者等に声かけを
0.5m 未満の浸水 ●床下浸水 ●大人のひざ下程度 ●浸水の深さが、ひざ上になると歩行は危険	屋内安全確保 自宅にとどまる むやみな移動は、かえって危険	平屋にお住まいの場合は 0.5m 程度の浸水でも危険な場合があります。浸水しない場所へ避難しましょう。

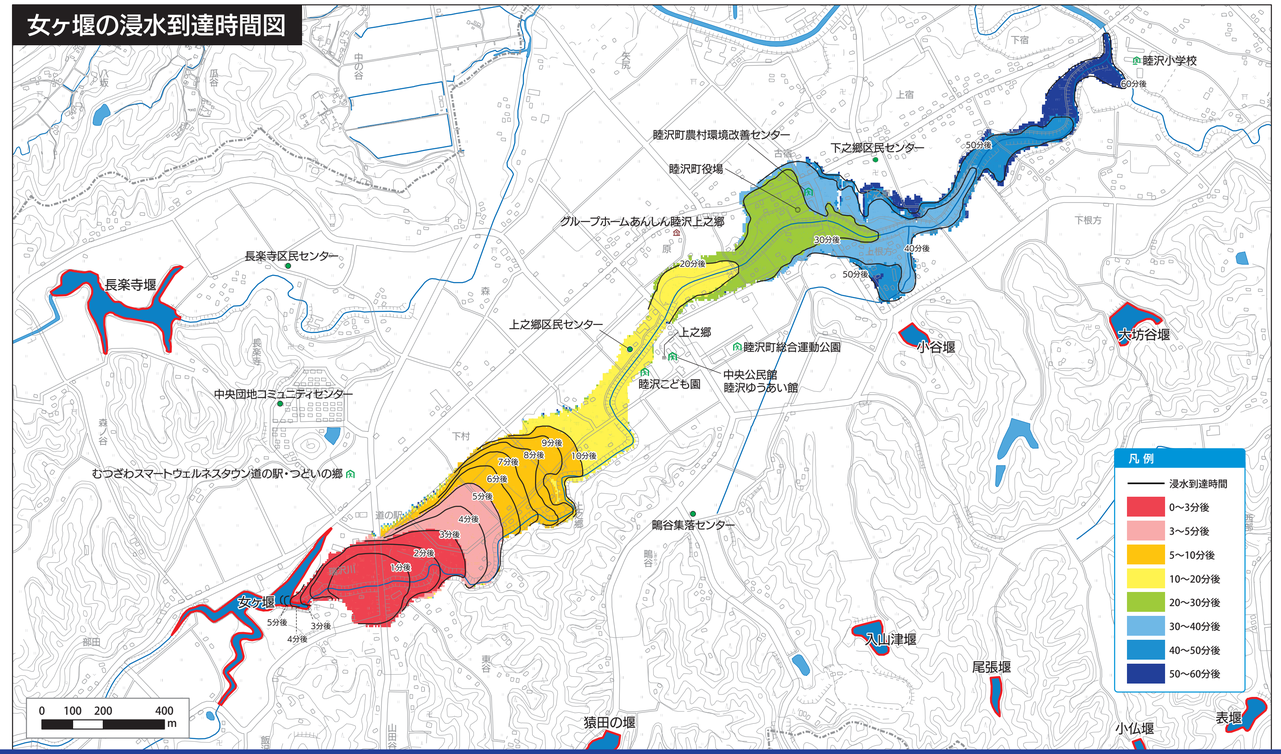
（※）避難先への移動に十分な時間と安全な経路が確保されている場合

女ヶ堰の浸水想定区域図



測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 2JHs 646

女ヶ堰の浸水到達時間図



▶避難するときに注意すること

●ため池決壊以外の災害も意識する
ため池が決壊した場合、周辺に下記のような災害も発生している可能性があるので、注意しつつ避難してください。

●危険な場所から離れよう
災害が発生したら、避難する際は、できるだけ広い道を選び、塀や水路から離れて避難しましょう。

●浸水を見かけたら、遠く離れて、無理をしない
避難できる水の深さの目安は膝までなので、無理な移動は避けましょう。

●浸水した場所では、できるだけ高い場所を目指しましょう
浸水により、安全な場所へ移動できないときは、自宅の 2 階や、できるだけ高い場所を目指しましょう。

▶避難の心得

地震のとき

洪水のとき

▶非常持出品

避難時に持ち出す必要最低限のものをまとめ、すぐに取り出せる場所に保管しておきましょう。
※重さは**成人男性で 15kg、成人女性で 10kg** 程度までを目安とし、避難時に両手が使えるよう**リュックサックタイプ**のかばんを使用しましょう。

- ☐ 貴重品
- ☐ 懐中電灯
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ 応急医薬品
- ☐ ハザードマップ

- ☐ 非常用食品・飲料水
  - ●火を通さずに食べられるもの（カンパンや缶詰など）
  - ●レトルトのおかゆ
  - ●離乳食・粉ミルクなど
- ☐ 生活用品
  - ●衣類、タオル、マスク
  - ●おむつなどの衛生用品（ウェットティッシュ・洗面用具・生理用品など）
  - ●その他（軍手・ゴミ袋・携帯電話の充電器など）

▶災害時の安否確認方法

災害用伝言ダイヤル　171

NTTでは、災害時に電話で安否確認ができる「災害用伝言ダイヤル」を提供しています。利用にあたっては「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。一般加入電話、公衆電話、携帯電話、PHSから利用できます。

自分の無事を知らせるために 伝言を録音する
伝言を録音する → 1 7 1 → 1 → 自分の電話番号を市外局番から入力する → 「録音」する（30 秒以内）

相手の無事を知るために 伝言を再生する
伝言を録音する → 1 7 1 → 2 → 相手の電話番号を市外局番から入力する → 「再生」が始まる

▶わが家の防災メモ

家族で話し合い、確認しておき、いざというときに役立てましょう。

避難場所（家族の集合場所）
家の中の安全な場所
非常持出袋の場所
避難・救助用品の場所

令和 3 年 3 月作成　睦沢町役場産業振興課